

第 1 号議案— 1

品質保証研究会 平成 28 年度活動報告

1. 活動状況

(1) 平成 28 年度の活動は、第 26 回通常総会で承認された活動計画に基づき展開し、所期の成果を収めることができた。

番号	項目	内 容		回数
1	総会	通常総会の開催		1 回
2	品質保証研究会全体活動	会員相互間の啓発	特別講演会	1 回
3			講演会	1 回
4			見学会	1 回
4	定例研究会活動	会員の活動状況や、品質保証に関する情報交換	QASG ニュースの発行 第 88 号～第 90 号	3 回
5			グループ毎にテーマを定めての品質保証に関する調査・研究活動と会員への成果提供	第 1 グループ
			第 2 グループ	6 回
6	幹事会	上記諸活動の計画・推進または支援	幹事会の開催 第 168 回～第 172 回	5 回

(2) 平成 28 年度品質保証研究会の活動実績を表 1 に示す。

2. 活動要約

平成 28 年度の活動要約を表 2 に示す。

表1 品質保証研究会 平成28年度活動実績

○・▽：計画 ●・▼：実績

項目		2016年(平成28年)						2017年(平成29年)							
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
全体活動	総会	第26回 6/6 ▼												第27回 6/6 ▼	
	講演会	計画	特別講演会 ▽						○ --- (案内発送)	---	第44回 ▽				特別講演会 ▽
		実績	6/6 ▼								2/21 ●	3/9 ▼		5/10 ●	6/6 ▼
	見学会	計画				○ --- (案内発送)	第42回 ▽								
		実績				9/30 ●	10/31 ▼								
	QA SG ニュース	計画		○ --- (依頼)	○ --- (締切)	88号 ▽ (発行)		○ --- (依頼)	○ --- (締切)	89号 ▽ (発行)		○ --- (依頼)	○ --- (締切)	90号 ▽ (発行)	
実績					9/10 ▼					2/1 ▼			5/11 ▼		
第1 グループ	計画		▽ (定例研究会)		▽ (定例研究会)		▽ (定例研究会)			▽ (定例研究会)		▽ (定例研究会)			
	実績			8/10 ▼		10/13 ▼		1/11 ▼	1/16 講演会 第2Gr共催		3/24 ▼		5/11 ▼		
第2 グループ	計画		▽ (定例研究会)			▽ (定例研究会)			▽ (定例研究会)			▽ (定例研究会)			
	実績				9/15 ▼			12/6 ▼	定例研究会 兼講演会 1/16 ▼	2/15 ▼		4/11 ▼	5/16 ▼		
幹事会	計画			第168回 ▽		第169回 ▽			第170回 ▽		第171回 ▽	第172回 ▽			
	実績			8/29 ▼		10/24 ▼			1/23 ▼		3/23 ▼	4/21 ▼			

表2 平成28年度 品質保証研究会 活動要約(1/2)

番号	項目		日時・場所等	参加人員	内容
1	総会	通常総会 第26回	平成28年6月6日(月) 学士会館 2階210号室	45名 (他、委任状31名)	(1)議案審議 ①平成27年度活動報告・決算案の承認 ②平成28年度活動計画・予算案の承認 ③平成28,29年度役員選任 ④平成28,29,30年度顧問選任 (2)定例研究会活動状況報告、特別講演
2	講演会	特別講演	平成28年6月6日(月) 学士会館 2階210号室	71名	第1部：セキュリティ心理学の考察～人間中心のセキュリティの確立～ 内田勝也氏[情報セキュリティ大学院大学 名誉教授] 第2部：食品安全のためのリスク分析の考え方 瀬古博子氏[消費生活アドバイザー]
		第44回 講演会	平成29年3月9日(木) TKP東京駅八重洲カンファレンスセンター(8F)8B室	34名	「事故とヒューマンファクター～安全は存在しないリスクを下げよ～」河野龍太郎氏[自治医科大学 教授]
3	見学会	第42回 見学会	平成28年10月31日(月) 三菱重工株式会社「MR J最終組立工場」	30名	施設/設備見学(MR J最終組立工場)及び航空機業界における品質保証体制に係る意見交換など
4	QASG ニュースの発行		(1) 第88号 平成28年9月 (2) 第89号 平成29年2月 (3) 第90号 平成29年5月		①第26回通常総会報告 ②第1・2グループ活動計画および活動報告 ③平成28年度役員紹介 ④第42回見学会記 ⑤第44回講演会報告、他
5	定例研究会	第1グループ (リーダー：宇奈手一之会員)	<p>【研究テーマ】 『研究テーマ：品質システムの研究「原子力QMSのあるべき姿に関する研究 - 原子力セクタ規格の調査・検討」』</p> <p>【研究の内容】</p> <p>1) 国際規格に対する評価 ISO9001-2015、ISO/CD19443などの国際規格や各国の基準などを分析し、原子力セクタ規格として必要な要素の抽出を行った。特に、設計管理の厳格化、内部監査の有効性向上、模倣品や情報セキュリティに関する事項の追加などが必要であるとの結論を得た。</p> <p>2) QMSへのヒューマンファクターの取り込み検討 従来の“仕組み”に加えてヒューマンファクターを考慮することでQMSの有効性を上げるというアプローチを検討した。IAEA GSR-Part2で管理者のリーダーシップが着目されていることや、スウェーデンでは“MTO(Man-Technology-Organization)”と称して各活動にヒューマンファクターを意識的に盛り込むことで一定の成果を得ているとの情報に基づき、パフォーマンス向上とエラー低減の観点からヒューマンファクターを考慮するという方向性を決定した。なお、ヒューマンファクターの検討においては第2グループとインターフェイスを取って協調していくこととした。</p> <p>3) QMS 枠組みマトリックスの継続審議 上記成果を昨年度の成果である“大きなQMS”の中にもどのように反映するかを検討し、原子力セクタ規格としての考え方を纏め、具体的な要求事項を検討した。</p>		<p>定例研究会</p> <p>平成28年 8月10日 平成28年 10月13日 平成29年 1月11日 平成29年 3月24日 平成29年 5月11日</p>

表2 平成28年度 品質保証研究会 活動要約(2/2)

番号	項目	内容
5	定例研究会 第2グループ (リーダー: 氏田博士 会員)	<p>【研究テーマ】 エラーマネジメントに関する調査研究</p> <hr/> <p>【研究の内容】</p> <p>(1)東京電力福島第一原子力発電所事故の論点整理と提言 H26年度活動報告に引き続き、「安全を達成するために必要な個人及び組織の在り方」を、以下の調査及び意見交換を通して検討した。</p> <p>①「ヒューマンファクターの観点からの福島第一事故の調査報告(HMS部会)」</p> <p>②福島第一原子力発電所事故をふまえた組織レジリエンスの向上</p> <p>③安全思想の再構築 深層防護(DID)と確率的安全評価(PRA)の関係を整理し、リスクマネジメントの観点から、リスクベネフィット解析の重要性を指摘した。</p> <p>(2)レジリエンスエンジニアリングの適用</p> <p>①Resilience Analysis Grid(RAG)のシート見直しと組織への適用性の調査・検討を実施した。</p> <p>②良好事例分析手法の確立と調査・検討 良好事例分析として、統一的な教訓シートに基づき、良好事例(3事例)と過去に分析した組織事故分析から教訓の抽出方法について検討した。 また良好事例分析対象を、福島第一、福島第二、女川、東海第二の事故事象へ拡張し、比較検討を試みている。</p> <p>③MTO関連の文献を数件収集し、その内容を評価し各組織への適用性の検討を試みている。</p> <p style="text-align: right;">定例研究会 平成 28 年 9 月 15 日 平成 28 年 12 月 6 日 平成 29 年 1 月 16 日 平成 29 年 2 月 15 日 平成 29 年 4 月 11 日 平成 29 年 5 月 16 日</p>
6	幹事会	上記諸活動の計画・推進または支援のため、必要な都度、幹事会を開催した。 (幹事会：第168回～第172回の計5回開催)